

【緑地の樹】

## ムラサキシキブ <紫式部>

プロフィール：クマツヅラ科 ムラサキシキブ属  
緑地にはいっぱいあります。

「おほかたの 秋のあはれを思ひやれ 月に心は  
あくがれぬとも」

「めぐりあひて 見しやそれともわ  
かぬ間に 雲がくれにし 夜半の  
つきかな」

平安時代の歌人・紫式部の有名  
な歌です。

貴族にとって恋こそが生きる全  
ての時代、恋に身を焦がしながら  
もどこか冷めた目で恋しい人を、  
自分自身をも見つめています。

「源氏物語」の作者としても有名な大作家の名を  
貰い受けた落葉低木のムラサキシキブ、緑地にも  
あるんです。しかもあちらこちらに。一番大きいの  
は、第一公園から中央広場に下りて来る小道の左  
側、高さ約二メートルほどになっています。

今年も6月の始めに薄桃色の小さな米粒の様な  
花を咲かせました。でも悲しいかな、日当たりが悪

くて、花つきがすこぶる悪かったのです。



去年の11月ごろは、まばらではあり  
ましたが藤色の小さな実を付けまし  
た。今年は昨年より花も少なく、お  
まけに虫にも食われ、蜘蛛の糸まで  
まといついています。

「秋のあはれ」とは、秋とは本当に  
寂しいものという意味です。ムラサキ  
シキブを見ながらこの歌を口ずさん  
でみませんか。

(か  
つた)

